

笹川保健財団 地域啓発活動助成

令和2 年 11 月 30 日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜多悦子 殿

2020 年度地域啓発活動助成
活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

地域啓発活動助成 「人生会議してみよう～自分の生き方、在宅という選択肢～」

活動団体名： 一般社団法人在宅看護センター佳実結
ゆいナースステーション

活動者（助成申請者）名： 大久保 智代

1. 活動の内容・実施経過

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）がもっと普及するように「人生会議」と名称がついたが、いまだ住民へ浸透していない現状である。なぜ必要なのか、在宅看取りを体験した方の経験談も含めて、「人生会議」の必要性や方法、また在宅医療についても認知していただけるよう講演会を計画していた。しかし、新型コロナウイルス流行により感染防止のため講演会は断念。

5月、テーマは変えずパンフレット配布へ計画変更した。

6月 結城市地域包括支援センターへ企画意図を説明。毎月発行される広報結城と合わせてパンフレット配布が可能か相談し、対応可能との返答をいただいた。

結城市へ後援依頼し、承認を得た。

7月～8月 遺族の方へインタビューを実施する計画であったが、感染への不安もあり対面でのインタビューは断念。企画意図を説明し、電話でのインタビューに応じてくださった。なお、協力報酬については辞退された。

9月 パンフレット内のマンガ作成を依頼、1週間後にデータ受取。

10月 パンフレットデザインを依頼。下旬にデータ受取。

パンフレットデータを印刷会社へ提出。

結城市地域包括支援センターと打ち合わせし、11月15日発行で計画をたてた。

11月 印刷会社よりパンフレット18,000部受取。

単発雇用者2名とともに、結城市で指示された通りパンフレット仕訳作業を実施。

11月15日号で発行となった。

2. 活動の成果

発行された翌日より、訪問している利用者や家族から、「パンフレット見ました。とてもわかりやすい」との言葉をいただいた。また、連携しているケアマネジャーからも、「訪問したら、利用者さん宅にパンフレットが置いてあり、“これ、どういうことだい？”と質問があったため、そのままACPの話題になった。いいきっかけになった」と評価していただいた。

3. 今後の課題

今期は、新型コロナウイルス流行により病院の面会制限が続いており、在宅医療を選択する方が増えてきた。これが一時的とならないよう、ACPについての啓発活動を続けていきたいと思う。感染流行が落ち着いたら改めて講演会を企画したい。

4. 活動の公表

なし